

特集にあたって

地域では過疎と高齢化の進行に伴い、地域活動の担い手が減少し、地域で従来から行われてきた様々な活動が十分に行われなくなってきている。歴史や伝統に裏打ちされた地域の祭りや文化活動が縮小されるに伴い、これらの活動を通じて引き継がれてきた地域に対する誇りが薄らぐ。地域のコミュニティ活動を通じ守られてきた地域の人々の暮らしが守られなくなり、担い手不足により地域産業が低迷して地域の経済力が低下している。

この状況は、地域が住民に果たしてきた役割を果たせなくなることであり、さらに進行すれば、やがては地域そのものの存続が危うくなるだろう。

これらの現状に対して、地域の人々は様々な取り組みで、これに立ち向かおうとしている。例えば、地域資源（人や物）の見直しや活用、移住等による外部人材の活用等であり、これらによって誇りの再認識やコミュニティの活性化、地域の経済の立て直しに努めている。

一方で、今回取り上げたICT（情報通信技術）は目覚ましい勢いで進化している。産業面はもとより私たちの生活場面にも急速に広がり、私たちの生活そのものを変えている。ICTは無数の可能性を秘めているようにも思われる。

今回の特集テーマである「ICTと地域づくり」は、このICTを地域活性化の有効なスキルとして活用できないか、という思いから設定した。ICTの専門家に、その現状や課題、今後の可能性をまとめていただくとともに、地域における先進的な実践例をあわせてご紹介したい。

御協力いただいた皆様に厚くお礼を申し上げますとともに、厳しい地域の現状を憂い、何とか打開したいと考える多くの方々にとって参考になる内容となっていれば幸いです。

えひめ地域政策研究センター

所長（専務理事） 森 敏明